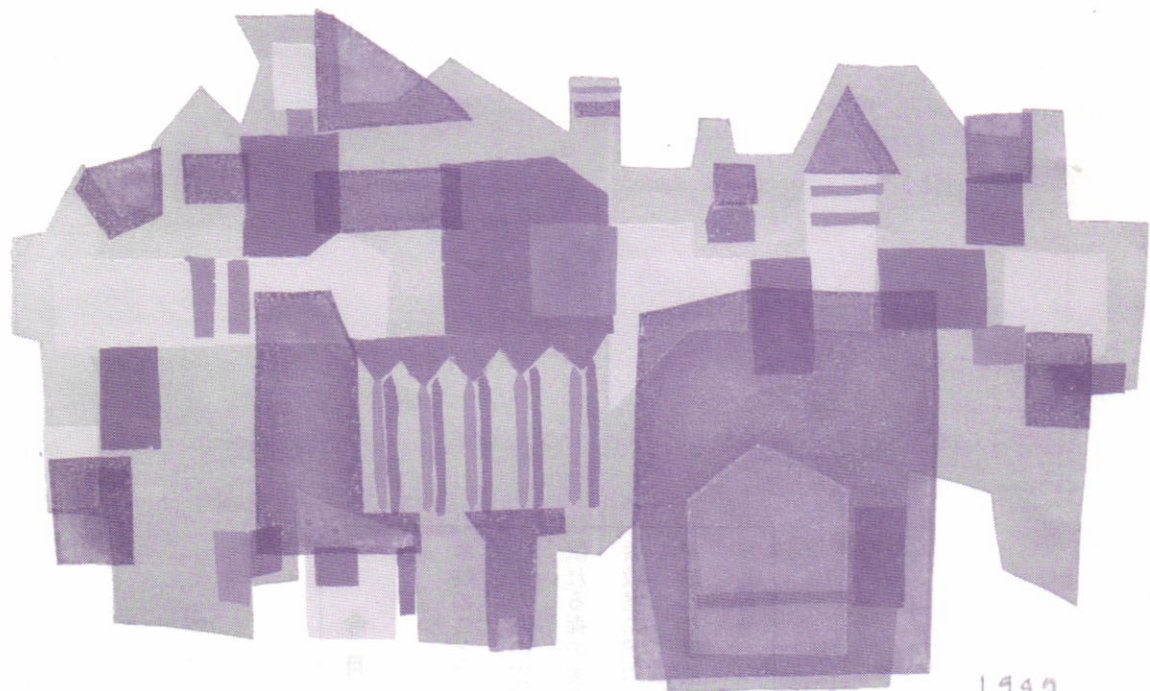


材料錬成館だより



1992
N. TSURUMIYANI



5 . 6 月 • 362号

（白雲の森）

今月号目次

挨拶	2
激励のことば	3
子供たちの作文	4
眠れる森の美女	5
柔教室に学ぶ	5
平成八年度決算書	6
おしらせ	7

財団法人 伏木 錬成 館 開館31周年記念式典

平成 9 年 6 月 15 日

挨拶

塩谷理事長に変わりました、ご挨拶申し上げます。

錬成館が昭和四十一年に開館いたしました今年で三十一年間経過いたしました。

開館いたしました目的というのは非常に意義がございません。

日本は戦争が終わり、物もなく、食糧もなく、非常に困難な時代がありました。二十年経って昭和四十一年、ようやく物も豊かになり、経済復興してきました。その時一番失なわれているのは何だろう、それは日本の心ではないだろうか、ということと錬成館の創始者飯田峯兆先生の主旨に賛同した人たちにより、伏木錬成館が誕生したのです。

その当時、飯田先生を中心に月二回勉強会を開いておりました。今後の日本の国を思うとき、青少年を育成する道場を開き、社会に有為なる人材育成に力を尽くしたい、と伏木錬成館開館となったわけです。その時、私達仲間には三年間は自分達の力ががんばろう。建物の改装、資金づくり、そして講師も仲間の中から、ということ、自分

副理事長 山崎 孝之

達の能力に応じて館活動の運営に当たりました。

三年間が過ぎ、伏木の町の人達に理解して頂き、応援してもらおうということで、特別会員として浄財を仰ぎ、運営資金として活用させて頂くことになりました。そして今日ここに三十一年のお祝をすることができました。会員の皆さん、家族の皆さん、職員の皆さんの努力の賜と心から感謝申し上げます。ここにおります職員は、無料奉仕で館活動に臨んでおります。又、子供の頃会員だった職員も多数おります。ここにいます会員の皆さんの中から、是非将来館活動を支える人になって、四十周年、五十周年を迎え、日本の子供たちのために奉仕して下さることが私の願いです。

伏木の恩人藤井能三先生は、伏木の発展は子供達の教育にあり、と伏木小学校を開かれました。伏木錬成館もその意志を継いで、三十一年間活動してきました。今後も更に研鑽を重ね、館活動に臨みたいと思っております。

(文責 在編集室)

式次第

- 黙 禱
- 開 式
- 国歌斉唱
- 挨拶
- 激励のことば
- 賞状授与
- 皆勤証
- 精励証
- 実技披露
- 君の祖国を 全員合唱
- ギター
- 詩 吟
- なぎなた
- コーラス
- 柔
- こども英語
- バンド
- バトン
- 友情の歌
- 閉 式



激励のことば

参与 伊勢宗治

私は、伏木鍊成館を造られた飯田峯兆先生についてお話をしたいと思います。

飯田峯兆先生は、もうすでに亡くなられましたが、伏木鍊成館が存続する限り、飯田先生を思わずにはおれません。どんな方だったか勉強して、その精神を受け継いで、立派な人間になろう、と思って頂きたいと思えます。

飯田先生は、大変立派な方でした。戦前満州で事業をしておられました。昭和二十年、いよいよ戦争がやしくなり、日本は負けそうになりました。負けたらどうするか、撫順という所におられました。飯田先生を慕ってくる人々に説いておられました。いよいよ戦争は負けました。ソビエト軍が入ってきました。次に蒋介石の軍隊が入ってきました。撫順の町は物が略奪され、町は荒れ、危険な状態になりました。満州の奥地から難民がどんどん入ってきます。食べ物はない、着る物もない、一枚の毛

布で十数人の人が足だけつっこんで寝る、といった状態になりました。その中で飯田先生は危険をおかして敵の将軍に会いに行き、町の治安が保てるように、食糧をもらえるようにかけあわれたのです。そして難民となった人達が無事日本へ帰れるよう奔走されたのです。そういう方なので、峯兆先生は、日本にこういう方はおられません。私が仰いでも仰いでも仰ぎ足りないと思すのは、こういうことなんです。

その飯田先生が、日本へ帰ってきて、日本の国はどうするか、若い人達と話し合いました。いろいろ考えた末に、伏木鍊成館をつくりました。しかし、飯田先生は昭和五十七年に亡くなられます。鍊成館を建てて十六年でした。その後十五年、職員の方々は、飯田先生の遺志を受け継いで活動を続けてきました。そしてこれからも益々盛んになるだろうと思っています。と申しますのも、飯田先生は、日本

に帰ってきて日本は心配だ、とおっしゃいました。近頃の日本もだんだんおかしくなってきています。私は、歴史を学んできていますが、何と、日本は悪い国なのか、こんな国に生まれなければよかった、という子供達が増えてきているのです。これは大変です。飯田先生の心配は、日本は経済的に復興し、豊かな生活になってきましたが、反面、心の方が物質本位の生活に負けてしまっ、日本人としての自覚がなくなってしまうと仰言っていたのです。どうか皆さん、ここでもう一度考えてみましょう。日本は、絶対に悪い国ではありません。そんな情けない国ではありません。日本は天皇陛下を中心にして、二千有余年栄えてきました。いつもやさしく、国民のことを思っておられます。世界の中でもこういう国はありません。

飯田先生は、日本人としての誇りと自覚を持ってほしいといつも話しておられました。

飯田先生なくして鍊成館はありません。飯田先生なくして日本はない。このように思います。

(文責在編集室)

レポート

伏木鍊成館は、昭和四十一年六月一日に開館しました。日本のよき心、伝統、文化を学びながら日本を愛する心を養っています。

広く人材を求め、日本の国のために役立つ人に、又、国際社会にはばたく人になっていただきたいとの願いから、活動は続けられています。

三十一年の間、多くの人達が学び、巣立っていかれました。今では子供の時に鍊成館に通っていた人達が大人になって職員として奉仕して下さる人が増えてきました。これは三十一年間培ってきた友情の輪の広がりに生じたものと自負しています。

今回の式典は、ご来賓として創始者飯田峯兆先生夫人 飯田富子先生、参与 伊勢宗治先生をお招きしました。職員四〇名 会員一〇二名、そして家族の方が多数(約一五〇名)参加して下さり、大変盛大な式典となりました。

こども英語教室に講師として来て下さっている、レイチェル先生(伏木高校ALT)が、ご